

ハルシナイから上流の地名①

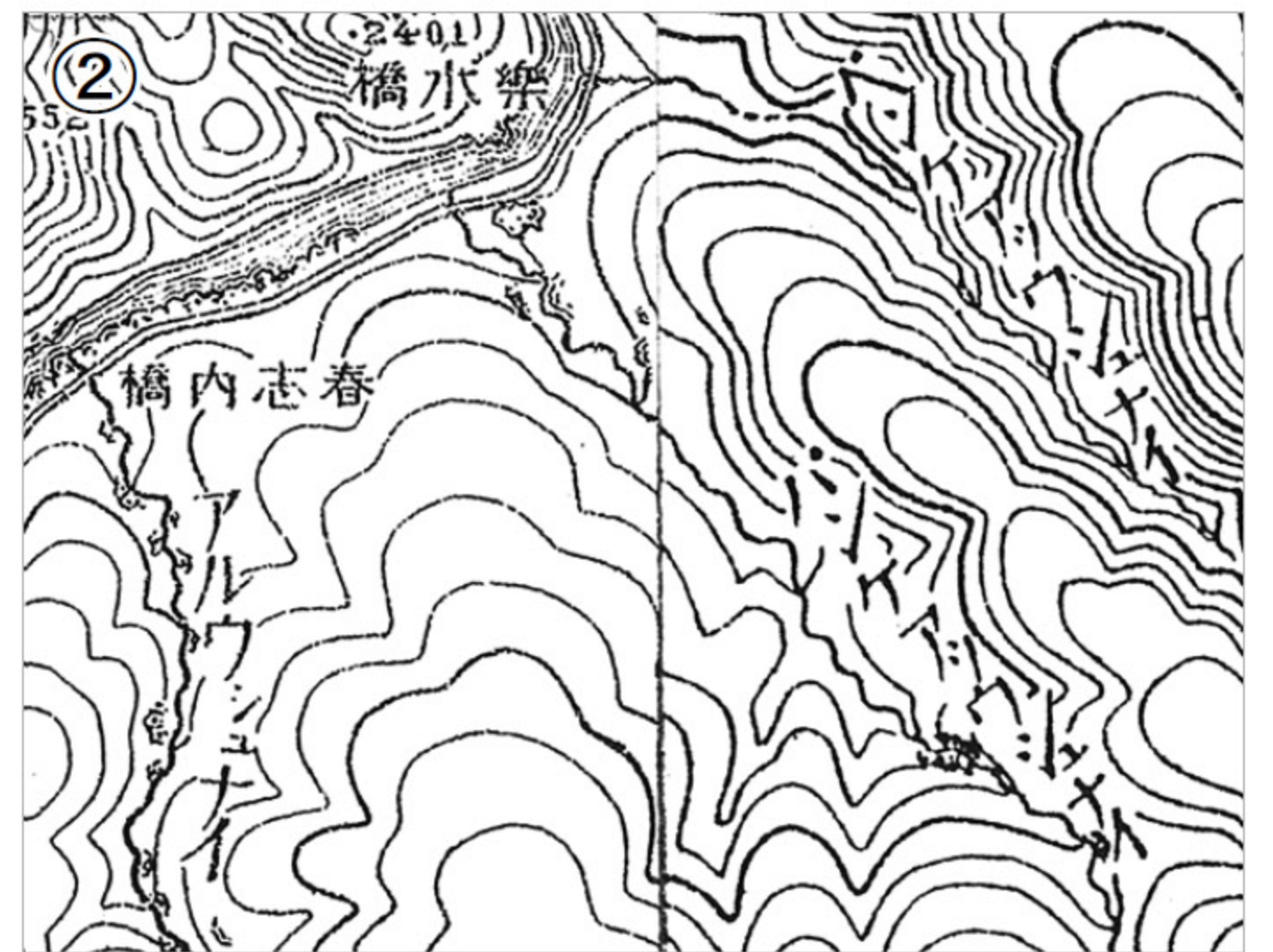
明治十九年六月二十四日に上川仮新道(国道十二号の前身)が竣工し、カムイコタンの丸木舟時代は終わりを告げた。今回は、丸木舟時代の冬季にカムイコタンを踏査した唯一の記録である。安政五年(一八七六年)の松浦武四郎の記録を紹介した。

掲載地図①は、現行の国土地理院の五万分一地形図に、安政五年に松浦武四郎が歩き、記録したアイヌ語の河川名のハルシナイ、アソナイ、ペンケアソナイをゴシック体で記入したものである。アソナイの河川に現在の公式河川名の神居第三線川と見える。ペンケアソナイは掲載地図では見えないが、神居第二線川、ハルシナイは、神居第四線川と掲載部分外に記されている。ハルシナイのように神居古潭の歴史的地名

が、現在は、神居第四線川という、実に味気のない番号川になっている。

さて、今号から、ハルシナイから上流の石狩川筋のアイヌ語地名を紹介していく。その際、アイヌ語地名の意味と、そのアイヌ語地名の現在の河川名や土地名を表示することとする。

掲載地図②は、明治三十年製版の仮製五万分一図を、河川名を見えるようにしたものである。ハルシナイは、アルウシユナイ、アソナイは、パンケアツウシユナイ、ペンケアソナイは、ペンケアツウシユナイとなっている。これは、明治二十三年三月、上川を調査した永田方正が、明治二十四年に、『北海道蝦夷語地名解』を出版し、掲載地図①のハルシナイ、アソナイ、ペンケアソナイについて、次のように地名解をしている。この永田方正のアイヌ語地名解が、掲載地図②に記されて公式河川名になっていたのである。



ハルシナイの永田方正の地名解

アルウシユナイ(Aru-ush-na) 糧川―食糧ヲアルト云フ。大川ノピリ(註―石狩川のうずまき)ノ岸ニ丸小屋ヲ作り、魚ヲ捕リ此ノアルウシユナイヨリ陸揚ゲシテ食料ニ蓄フ。故ニ此名アリ。春志内トアルハ、上川アイヌノ辞ニアラス。

アソナイの永田方正の地名解

パンケアツウシユナイ(Panke-at-ush-nai)―下楡川―今ノアイヌアソナイト云フハ訛ナリ。此川筋楡多シ。故ニ名ク。橋アリ、洋(註―「洋」は原文の漢字)水橋ト云フ。

ペンケアソナイの永田方正の地名解―ペンケアツウシユナイ(Pe-nke-at-ush-nai)―上楡川―此川筋ニ楡多シ。橋アリ、楽水橋ト云フ。

アイヌ語地名は、採録者によって大きく異なる典型的な例である。掲載地図③は、文政四年(一八二二年)頃作成の間宮林蔵の(仮称)『北海道全図(河川図)』のハルシナイ。掲載地図④は、松浦武四郎の『東西蝦夷山川地理取調図』のハルシナイとアソナイ。掲載地図⑤は、高橋不二雄の明治二十年刊行の『改正北海道全図』のハルシナイ

とアソナイである。これらの信頼できる地図からも、右の三川のアイヌの人たちの呼称は、ハルシナイ、(パンケ)アソナイ、ペンケアソナイが正しいものと判断できる。

今回は、ペンケアソナイの山道を紹介する。

(アイヌ語地名研究会幹事) ※毎月第一週号に掲載します

断章 アイヌ語地名研究

91

高橋 基

